



..... CONTENTS

- 2018年度『埼玉県経営品質賞』受賞企業決定にあたって
- 「経営品質実践塾」開催報告
- 2018年度『埼玉県経営品質賞』受賞企業紹介
- 2019年度 セミナー開催予定について

2018年度埼玉県経営品質賞 受賞企業決定にあたって



埼玉県経営品質賞委員長（国立大学法人埼玉大学 学長）山口 宏樹

日ごろより、経営品質向上の普及推進ならびに埼玉県産業界の発展にご尽力いただいている皆様に対し、心から敬意と感謝の意を表します。

埼玉県経営品質賞は、日本経営品質賞の考え方をもとに、日本有数の中小企業が存在する埼玉という地域の中で、「経営品質向上」を活用して各企業・組織が活力を高め、成長を続けるための一助となることを目指しています。県内の企業・組織がこの賞に挑戦することによって、この大変革期に将来を見据えた経営改革を実行するきっかけとしていただく

ことが目的です。

同時に、本賞を受賞された優良企業の事例を県内に広めることにより、改革を望む企業・組織が業種や規模・組織形態といった枠を超え、互いに学び合い、競争力を高めていく好循環が生まれることを期待しています。

審査は日本経営品質賞アセスメント基準に基づき、経営改革を支援することを目的として、審査員チームにより行われます。表彰は、その基準により、知事賞・優秀賞・奨励賞と3段階の評価に分かれます。審査の結果、全ての申請組織に対して詳細な「評価レポート」を提出し、これにより申請組織の更なる発展への指針として活用いただいています。

2018年度 埼玉県経営品質賞表彰事業におきましては、厳正なる審査を進めた結果、アイコミュニケーション株式会社（さいたま市）が埼玉県経営品質賞優秀賞、松井産業株式会社（三郷市）と株式会社アイオプト（さいたま市）が埼玉県経営品質賞奨励賞を受賞されました。誠にありがとうございます。

今年度も、更に多くの企業に経営品質賞申請に意欲的に取り組んでいただけることを期待しています。

2019年度 セミナー開催予定について

●顧客価値経営フォーラム

2019年5月20日(月) 13:30～ 会場：さいたま商工会議所会館2階

●セルフアセスメントセミナー

A1 コース 2019年10月23日(水)～10月24日(木)

A2 コース 2019年11月20日(水)～11月21日(木)

A3 コース 2020年1月15日(水)～1月16日(木)

●経営品質ファシリテーター養成講座

6月20日(木)、7月25日(木)、8月21日(水)、9月18日(水)、11月28日(木)、1月21日(火)、2月18日(火)
開催時間は全日13:30～17:00、会場はいずれもさいたま商工会議所・業務本部会議室(ソニックシティビル8階)です。
10月、1月はベンチマーキングを予定しています。

※詳細につきましては改めてご案内いたします。予定は変更となる場合もございます。予めご了承ください。

2018年度 埼玉県経営品質賞 優秀賞受賞企業紹介

アイコミュニケーション株式会社



代表者：代表取締役 澤田 泰行
所在地：さいたま市北区宮原町 1-505-1
業 種：携帯電話小売
社員数：324名

展開することで「オペレーショナル・エクセレンス（業務の卓越性）」による効率化を加味し、より高い成果に結びつけようとしています。

成長マトリクスでは「市場浸透戦略」を志向し、ビジネスパートナーである通信キャリア（NTTドコモおよびKDDI）から提供される商品・サービスを既存顧客と潜在顧客の双方に浸透させることで顧客の維持・拡大を図り、企業収益を向上させようと考えています。

競争力の源泉を人的資源とソフト資源に定め、「強み」を活かして良質なアソシエイトを適正数確保し、定着させ、育成して業績に結びつける仕組みや環境を作る（質的優位に繋がる）運営ノウハウを蓄積することで差別化を図っています。

変革のための戦略課題では、「キャリアが定める配置人員を上回る、良質な人材を適正数確保する」、「コンサルティングとホスピタリティーのクオリティーレベルを高める」の2点がポイントとなります。

キャリアと利用者との間で「翻訳者」としての役割を果たすことが社会的使命であると認識し、「単なる業務の委託先」から脱却し「ビジネスパートナー」として認められることを目指しています。

NTTドコモとKDDIの代理店事業において、既存ドメインに隣接する南関東に営業エリアを絞ってドメインを定め、通信代理店としてのニッチ戦略を事業戦略の基本に据えています。

現在は楽天の参入、5Gの実用化、IoTの普及を初め、業界全体が大きな転換点にあります。こうした変化にうまく対応し、店舗の改装・移転、新規出店などを通じて成長を目指しています。



2018年度 埼玉県経営品質賞 奨励賞受賞企業紹介（順不同）

松井産業株式会社



代表者：専務取締役 松井 健司
所在地：三郷市彦成 1-1
業 種：建設・不動産業
社員数：130名（グループ社員含む）

当社は、大正11年三郷市彦成に呉服店として創業しました。「信用と和ひとすじに」を経営理念に、地域のお困りごとを解決してきた生活創造企業として97年目を迎えました。

た。創業時の呉服店から米屋、菓工品、養鶏、鶏の飼料と事業を変え、さらに時代の流れと共に、不動産事業・建設業と事業変革し、飲食店、介護事業を加え、常に地域へのお役立ちのために事業を展開してきました。

経営戦略として、経営計画書にて社の標準化を図り、チャレンジシートにて個々の目標・行動を明確にし、トラストノートを用いてセルフマネジメントできる仕組みづくりに取り組んでいます。

また、創業100年を迎えるに当たり「合言葉はTRUST4」をテーマに掲げ、「HQCC」という4つの軸にて「人づくり」に組みはじめました。(1) H:ホスピタリティ (2) Q:クオリティ (3) C:クリンリネス (4) C:コミュニケーションの4つです。そしてこの4つを身につけるため、日本品質管理学会認定のQC検定を始めとして8つの資格試験にチャレンジしています。社員の資格獲得により、ひとり一人のお客さまからさらなる信用をいただき、地域のお役にたてる会社としての成長を願っています。

株式会社アイオプト



代表者：代表取締役社長 大原 佳子
所在地：さいたま市北区日進町 2-753-2
業 種：メガネ・コンタクトレンズ小売
社員数：28名

当社は1987年に創業し、眼科に隣接した店舗運営で、メガネとコンタクト販売をしていますが、“もの”を売るのではなく、“こと”を売ることを意識しています。

通常の販売店と違いまして、お客様はメガネのご購入を楽

しくするというよりも、病気の不安を抱えていたり、眼鏡を嫌々掛けなければならない方が多くおられます。そのような方に寄り添う接客で、今よりも生活の質を上げるためのご提案をさせていただきます。

お客様の満足を第一に考えていきたい、その一方で一緒に働くスタッフの幸せも考えていきたい、でも、この二つの事は相反することで両方を手に入れるのは難しいと思っていましたが、この経営品質賞を知り、更に受賞された会社にベンチマークに行き、両方も、いや更に地域の方からも大切に思われている会社になることができるのだということが実感できました。

私もスタッフが生き生きと輝く会社を目指したいと思い、昨年経営品質賞に取り組み、推進賞を頂きました。そして二年間の取り組みを経て、今回奨励賞を頂きました。その申請書を作る中で多くの学びがあり、今までの取り組みを整理する機会にもなりました。これからは頂いた課題を中心に『徹底』をキーワードに統合と展開を意識していきたいと思っています。

経営品質実践塾 開催 — ベンチマーキング in 上越 他 —



寺沢俊哉氏をファシリテーターとして、今年度は「優れた企業の取組事例をベンチマーキングして、自身の組織に活用していただくプログラム」として実施しました。

10月9日に「優れた企業から学ぶ方法～いかに我が社に取り入れていくか」を行い、11月2日に日本経営品質賞の日本全薬工業(株)に20名程で訪問しました。

12月11日には「改善革新活動の進め方～動機づけの極意」、1月15日は「活動を加速させるために人を育て、道を拓く」を行い、2月22日に新潟県経営品質賞の日鉄住金工材(株)に28名で訪問し、それぞれの視点で優れたプロセスを直に学ぶことができました。

参加者の声 ～経営品質実践塾 Day5に参加して～

経営品質実践塾 Day5として、平成31年2月22日(金)、新潟県上越市の日鉄住金工材株式会社をベンチマークに訪問させていただきました。日本有数の豪雪地帯の十日町を抜け、上越市のある高田平野に入ると、雪もなく暖かい日差しと社員の皆さんの笑顔が28名の参加者を迎えていただきました。

同社は社員数104名、ステンレス、チタン等の特殊合金を東京ドーム1個分の広大な敷地で加工販売し、売上高

は約40億円、今年度のROS予測14%、プリント基板の銅箔を製造するためのチタン製電着ドラムは向こう2年を超える製品は受注済みという、新潟を代表する優良企業です。また、2017年度の新潟県経営品質賞中小企業部門知事賞を受賞されました。しかし現石川社長が着任した7年前には赤字体質で、誰も結果に責任を持たない、ゆるい会社風土が蔓延していました。そこで着任直後から大きく舵切りをし、なんと1年半で黒字経営の会社に生まれ変わりました。

経営品質への取り組みは、その後から始まりました。それは「ボーナスも増えてよかったね」と声をかけた石川社長に対し、「こんな忙しさが続くと思うと、ぞーっとする」という現場で働く社員の声でした。利益を出し、給与を増やすだけではなく、仕事にやりがいを持ち、幸せを感じられる会社でないと、本当の満足ではないと実感されたからです。

そこから6年経った現在、同社は社員の幸せの実現に注力し、社員と組織の活性化を図り、それを原動力として独自能力を発揮し、お客様のありたい姿を具現化することを、顧客成長戦略神話と位置付けて取り組んでいます。その価値実現に向けて、対話を中心に、成果につながる自主的な実行力を出す仕組みや、人づくり改革の玉ねぎストーリー、そしてプライベートを含んだ社員の幸せを育む取り組みなど、数々の取り組みをご紹介いただきました。

ベンチマークを終え、市内の料亭で石川社長、幹部社員、そして経営品質の取り組みときっかけとなった現場リーダーの皆様にもご参加いただき、夕食交流会の場を設けていただきました。そこでは新潟の美味しい魚と日本酒に舌鼓を打ち、本音の話を聞きながら、楽しい時間を過ごさせていただいた後、帰路に着きました。

(狭山モータースクール(株) 町田整)

